

主訴：

視力低下、レーザー治療後の飛蚊症

現病歴：

数年前より#1,2 を指摘され、眼科にてレーザー手術を受けたが、その後飛蚊症様症状が続いていた。血縁関係者のがんに罹患された方がいることからマイクロアレイ血液検査を実施するために当院を 2016 年 1 月当院初診、その後#1 に対してオゾン療法実施希望となった。

理学的所見：

眼科検査・所見は眼科医院にて実施。

臨床経過：(オゾン療法の詳細、濃度・投与量、治療頻度、回数、効果などを記述)

G6PD 検査にて問題が無いことを確認した後、患者と相談の上で週 1 回の MAH を計画した。初回 (2016.3.28) はオゾン・酸素混合ガス  $30 \mu\text{g/ml}$ , 50ml を患者自家血液 50ml と混合する MAH (オゾン総量  $1,500 \mu\text{g}$ ) を実施した。その後、オゾン総量を漸増し、 $40 \mu\text{g/ml}$ , 100ml (血液 100ml、オゾン総量  $4,000 \mu\text{g}$ ) で治療継続した。約 2 ヶ月後 (オゾン療法 8 回実施後)、視力改善の自覚はないものの、眼科医院での検査では改善傾向にあるとのことであった。本人の希望で、以降は月に 1 回のオゾン療法を実施し、著変なく現在に至っている。